

科目名 Course Name		開講年次	開講学期	曜日・時限
乳幼児の食と栄養 Children's Dietary and Health		1年	後期	別途、時間割参照
単位数	授業の形態	授業の性格		履修上の制限
2単位	講義	選択	(幼児食ユニット必修)	全フィールドの学生が受講可
当該科目の理解を促すために受講しておくことが望まれる科目				
児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度				
同時に履修しておくことが望まれる科目				
クッキングⅡ、基礎栄養学				
担当者に関する情報				
氏名	研究室の場所	オフィスアワー		電話番号・メールアドレス
野中 春奈		火・水・木・金曜日 9:00～16:00 (授業時間を除く)		授業中に指示します
授業の概要				
乳幼児期の子どもの心身の健全な成長・発達を促すために必要な栄養・食生活について、胎生期（妊娠期）、授乳期（母乳栄養、人工栄養）、離乳期、幼児期の各発達段階別にその意義と重要性を学び、各発達段階に応じた栄養・食生活の特徴、具体的な内容についての知識と実践力の習得を図る。また、乳幼児期の食と健康に関する現状と問題点を踏まえ、社会や家庭における食育活動の実践力を養う。				
授業の目標				
①胎生期（妊娠期）、授乳期（母乳栄養、人工栄養）、離乳期、幼児期の栄養と食生活の特徴と具体的な内容を理解することができるようにする。②各発達段階の食と栄養についての知識を踏まえ、今後の自身の生活において適切な食支援を実践することができるようにする。③乳幼児期の食と健康に関する現状と問題点を理解し、自ら進んで食育活動を実践することができるようにする。				
授業の方法				
講義を主とする。ディスカッション、事例研究なども取り入れる。				
学習の成果（学習成果）				
①妊娠期における心身の発達と食生活の意義と重要性を理解し、胎児の成長に必要な妊娠期の栄養の特徴と食生活の注意点などを参考に解説することができる。②授乳期の栄養の意義と重要性を理解し、母乳栄養の特徴と分泌の仕組み、留意点及び人工乳の特徴と調乳方法、授乳方法を具体的に解説することができる。③離乳期の栄養の意義と重要性を理解し、各期の離乳食の進め方（固さ、大きさ、種類、内容）とその目安について説明することができる。④幼児期の栄養の意義と重要性を理解し、幼児に適した食事や間食、弁当の内容について指導することができる。⑤乳幼児期の食と健康に関する現状と問題点を理				
授業のスケジュールと内容				
第1回目	ガイダンス、概要説明			
第2回目	妊娠期（胎生期）における心身の発達と栄養と食生活の特徴			
第3回目	授乳期の栄養の意義と食生活（1）母乳栄養			
第4回目	授乳期の栄養の意義と食生活（2）人工栄養			
第5回目	離乳期の栄養の意義と食生活（1）離乳の定義、開始と完了			
第6回目	離乳期の栄養の意義と食生活（2）離乳の進め方			

第7回目	離乳期の栄養の意義と食生活（3）食品の選択上の注意、目安	
第8回目	幼児期の栄養の意義と食生活（1）幼児期の成長と発達、幼児期の栄養と食生活の特徴	
第9回目	幼児期の栄養の意義と食生活（2）間食の重要性、幼児期のお弁当	
第10回目	乳幼児の食に関する現状と様々な問題（1）朝食欠食、偏食 等	
第11回目	乳幼児の食に関する現状と様々な問題（2）食物アレルギー 等	
第12回目	筆記試験、解説	
第13回目	家庭や保育所における食育活動の現状、事例研究	
第14回目	子どもが健やかな食生活を送るために（1）食育の重要性	
第15回目	子どもが健やかな食生活を送るために（2）様々な食育活動の展開	
成績評価の方法と基準		
評価の領域	割合	評価の基準
授業参加態度	10%	遅刻欠席等なく授業に出席し、ディスカッションに積極的に参加し、自身の意見を述べる事。授業中の居眠りや不必要なおしゃべり、携帯電話の使用などがある場合は減点とする。
レポート	60%	詳細に課題を探求し、内容構成もしっかりしており、課題の要件を十分に満たしている。（詳細はガイダンス時に説明する）
調査報告書		
小テスト		
試験	30%	各発達段階に応じた食と栄養の意義と特徴を十分に理解し、正確に解答がなされているものとする。（詳細はガイダンス時に説明する。）
発表内容（態度含む）		
その他		
教科書と参考図書		
授業担当者より適宜資料を配布		
履修上の留意点・ルール		
「授業への参加態度」に準ずる。飲食物の教室への持ち込みや携帯電話の使用は不可とする。		